つるさき

発行所
鶴崎神社
早島町早島2220
〒701-0304
TEL FAX 482-0097
URL
www6.ocn.ne.jp/~turusaki/

荒神社　摂末社巡拝⑬

早島町早島一二五四

祭神　火之迦具土神

当社は、火之迦具土神（ほのかぐつちのかみ）を祭神として祀り、市場桜町・旭町・町市場東・町市場西・町市場中・中市場地区の氏神として守られている。

火之迦具土神は伊邪那美神（いざなみのかみ）が最後に産んだ御子神で伊邪那美神は、この神を産んだために死んでしまい、黄泉国（よみのくに）（死の国）に下ることになる。

古事記には火之迦具土神、日本書記には阿遇突智神（かぐつちのかみ）と記されており、火の神とされている。

火之迦具土神を祀る神社は愛宕神社（京都市右京区嵯峨愛宕町）と秋葉神社（浜松市天竜区春野町領家）の二社があり、何れも鎮火の神として有名である。

この荒神社は火の神を祀ると同時に、地区の守神でもある。

昭和三十八年一月十日鶴崎神社に合併した。また、社殿の老朽化により、改築を行う事となり、平成十四年三月二十六日に仮殿遷座祭、同四月二十四日本殿遷座祭、同五月十一日竣工奉祝祭を執行した。

祭典は、例祭を毎年十月二十七日に執り行っている。

社殿建設及び募財の予定

氏子の皆様におかれましては、この度の当社社殿建設事業の趣意にご賛同下さいまして、早速心のこもったご寄進奉納申し込みを賜り、洵に有り難く厚く御礼申し上げます。

皆様方の尊い浄財は、氏子さんや地域の宝として後世に残る新社殿建設の為に有意義に使用させて頂きます。

さて、今後の工事予定ですが、鶴崎神社・八幡神社両御本殿移設に伴う造成工事は、去る三月十五日から開始されており、進入路及び本殿移設場所の造成工事は完了致しております。

❶五月十九・二十日の春季大祭終了後に拝殿等の解体に着手致します。

❷拝殿の解体終了後、両御本殿の基礎工事並びに、亀腹（本殿の土台）築造を行います。

❸亀腹及び基礎の硬化完了後、両御本殿の移設工事を行います。

❹両御本殿の移設工事終了後、新社殿基礎工事を行います。

❺基礎の硬化完了後、新社殿の建設に着手致します。（建設開始は年末～来年一月の予定）完成は平成二十一年五月の予定です。

次に募財の予定でございますが、二月二十五日開催の社殿建設委員会におきまして次の通り決定致しました。

①一括奉納の氏子さんは、各地区の総代さんが直接集金にお伺い致します。

②分割奉納の氏子さんは、幹事さんに集金をお願い致しますが、総代さんの同行等の必要がある場合は、総代さんとの話し合いで決定致します。

③氏子内企業・団地・出氏子（氏子内出身者で氏子外へ居住の方）等に対して第二期募財を行う事と致します。

新しいご社殿が、予定通り建設できますよう、ご協力をお願い申し上げます。

社殿建設に伴う祭典の予定

(1)造成工事安全祈願祭
三月十五日工事関係者参列の下執行。

(2)社殿解体清祓祭（平成十九年五月）
解体前に感謝と工事安全を祈願する。

(3)両ご本殿移設場所地鎮祭
土地の神等に土地塞ぐお詫びと、今後借り受け、守護を祈願する。

(4)八幡神社仮殿遷座祭
八幡神社の御神体を一時的に鶴崎神社のご本殿にお遷しする。

(5)八幡神社本殿遷座祭並びに鶴崎神社仮殿遷座祭
八幡神社の御神体を鶴崎神社のご本殿からお遷しする。鶴崎神社の御神体を一時的に八幡神社のご本殿にお遷しする。

(6)鶴崎神社本殿遷座祭
鶴崎神社の御神体を八幡神社のご本殿からお遷しする。

(7)手斧始祭
建設用材の加工を始める仕事始めにあたり、安全を祈願する。

(8)社殿建設地鎮祭
土地の神等に、土地塞ぐお詫びと今後借り受け、守護を祈願する。

(9)立柱祭
神様に柱を立て奉り、完成の無事を祈願する。

(10)上棟祭
工事の安全と建物の堅固長久を祈願する。

(11)竣工奉祝祭（平成二十一年五月）
建物の完成を祝い、建設された建物の堅固長久を祈願する。

祭典（お祭り）ご祈祷等は通常通り行われます。

五月の春季大祭終了後には現拝殿を解体撤去致しますが、御本殿の神様はそのままお鎮まりになっておられますので、祭典や祈祷は通常通りご奉仕できます。

祈祷場所につきましては、鶴崎神社ご本殿と八幡神社のご本殿の中央にあたる境内に仮拝殿を建設してご奉仕致しますので、通常と変わらずご参拝並びに祈祷もできます。

◆夏祭りは、通常通り茅の輪を設置しますが、拝殿の左右石段は通行止めと致しますので、石段下又は仮拝殿からの参拝となります。

◆秋季大祭（供膳祭）は、工事を中断し、御本殿までの通路を作り、供膳をお供えし、ご本殿前に参列して、祭典を奉仕致します。神幸祭も例年通り執行致します。

← 社殿改築に伴う進入路の造成工事

ご本殿移設場所から鶴崎神社本殿を望む →

神道Q&A

【質問】

葬儀などの後で「清め塩」をいただきますが、その使用方法と意義を教えて下さい？

【答え】

清めに塩を用いることは、我が国の宗教的習俗であり、海水を意味する「潮」とも通じてさまざまな風習があります。

古くは、古事記や日本書紀の神話に、黄泉（よみ）の国（死者の国）から戻った伊弉諾尊（いざなぎのみこと）が自らの体に付いた黄泉の国の穢（けがれ）を祓うため、海水で禊祓（みそぎはらい）をおこなったことが記されています。

このことが民間においては、「潮（塩）垢離（しおごり）」といって海水を浴びて身を清めたり、海水を沸した「塩湯（えんとう）」が、病気治療や無病息災のために用いられるといった風習に繋がっていきました。

これも塩が持っている優れた浄化力や殺菌力を知っていたためです。

現在、神社の祭りにおけるお祓いでも、塩水でお清めをおこなう塩湯（えんとう）が用いられます。

当社においても、春・秋の大祭にはお祓いの道具として、大麻（おおぬさ）と塩を湯で溶いた「塩湯（えんとう）」の二つで神饌（しんせん）（お供え物）や参列者、玉串などのお祓いを行っています。

葬儀の際など、一般で塩が用いられるのも、こうした信仰に基づき、非日常と日常とを分ける清めの行為を象徴的におこなったものといえます。

最近一部の葬儀で、死者に穢があるというのは、差別だとして「清め塩」を使わないようにしている所もあるようですが、人の死は人知を越えたもので、差別をするというものではありません。

葬儀などの後で、「清め塩」をいただいたら、袋を破って体に左、右、左の順で三回かけてお祓いします。または、玄関の外に塩を置いて、靴のまま踏む「踏み塩」をされても結構でしょう。

塩の力に祓いの願いを託すことは、祖先から受け継がれた英知なのです。

諸祈祷・出張祭の案内

当社では左記により随時ご奉仕致しております

◆初宮詣・交通安全・厄除・安産・家内安全・当病平癒その他

◆地鎮祭・上棟祭・家移清祓・宅神祭・神葬祭等

ご希望の方は前もってご連絡下さい。

祭事暦

五月十九日（土）［午後七時］
　春季大祭宵祭（露店あり）
五月二十日（日）［午前十時］
　春季大祭【供膳祭】
七月三十日（月）［午後五時］
　夏越祭【輪くぐり祭】（露店あり）
毎月一日（午前九時）月次祭

※月次祭にお詣りの方は、拝殿にご昇殿下さいまして祭典に参列して下さい。